

後援会だより

第 16 号 2013. 9.20

編集発行／鹿児島大学法文学部後援会

本誌のご案内

○後援会会長ごあいさつ 1
○法文学部長（後援会顧問）ごあいさつ 1
○研究室紹介（ドイツ文学 竹内研究室）. 2
○後援会総会（第 11 回）開催 3

○就職状況 3
○平成 24 年度決算・平成 25 年度予算 4
○平成 25 年度後援会役員一覧 4

後援会会長ごあいさつ

鹿児島大学法文学部後援会
会長 阿多 真紀子

今年は記録的な暑さとなり、連日の最高気温にうんざりいたしました。会員の皆様におかれましてはご健勝のことと拝察いたします。



さて、「後援会」の意味もわからずに会員となりまして二年目となりましたが、去る7月13日の法文学部後援会総会におきまして会長に選出され、非力ながらお引き受けすることとなりました。子どもたちのため、親の背中を見せるという親の威厳のために、精一杯の努力をしたいと思っております。会員の皆様からのご教示とご支援を頂ければ幸いです。

先日は、たいへん暑いなか多数の会員の皆様にご参加いただき、無事総会を終えることができました。総会では、年間の活動計画や予算計画等の大事な議事もありましたが、なにより学生の皆さんによる活動報告もあり、この後援会の大切な意義を知る良い機会になりました。

また、その後に行われた懇談会では、普段なかなかお会いする機会のない教職員の皆様、保護者の方々たくさんお話ができ、とても有意義な時間となりました。

来年度は、もっとたくさんの方々笑顔を見ることができたらと願っております。そのためには、総会に参加する権利を持った会員の皆様に、ぜひその権利でもって参加していただければと存じます。

親としては、子どもたちが大学生になってもう大人であると、内心とても嬉しくまた誇らしく思っておりますが、子どもたちから手を離し、目を離しても、心を離したくはないものです。子どもたちがこれから社会に出るときの不安は、私たちも経験してきました。その時に相談したのは、やはり親でした。現在は昔とは大きく違うでしょう。しかし、きちんと子どもの社会を理解し、アドバイスできるようになりたいものです。そのためにも、私たち保護者には「知る」ということが大切ではないでしょうか。どうか会員の皆様におかれましては、「子どもを知る」ための様々なチャンスを、しっかりと掴んでいただきたいと思っております。

親の威厳は、やはり努力でしか得られないように思われます。親業は、結構まだまだ続くようです。

法文学部長（後援会顧問）ごあいさつ

法文学部長 平井 一臣

後援会の皆さまには、法文学部及び人文社会科学部研究科・臨床心理学研究科・司法政策研究科への日頃からのご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。



去る7月13日に開催された後援会総会には県内外から多くの保護者の方々にご参加いただき、その後の懇親会も大変盛況となりました。心から御礼申し上げます。

本年度もまた、4月に新しい入学生を迎え、前期の授業と学期末試験も終わろうとしています。初めての大学生活をスタートさせた新入生も、新たな環境での

生活にも慣れ、勉強やサークル活動、そしてアルバイト等に精を出しているように見えます。また、4年生の場合、すでに内定をもらい就職活動にピリオドを打った学生もいれば、就職活動を継続中の学生や公務員試験等に取り組んでいる学生もいます。キャンパス内で様々な学生と接する度に、法文学部に入学した学生一人一人が何かを身につけ、確実に成長していることを実感する今日この頃です。

さて、私どもが直面する課題の一つに、グローバル化への対応という問題があります。近年、外国から日本に来る留学生が増加する一方、日本から外国に留学する日本人学生が減少傾向にあり、日本の若者の「内向き」志向が問題視されております。鹿児島大学の場合も例外ではありません。幸いにも、今年法文学部で開催した留学説明会には例年以上に多くの学生が参加し、また、全学共通教育のなかで実施されている海外派遣事業へも他学部比べて多くの学生が参加するなど、学生の積極性が確実に高まっているように思われます。

もちろん、海外に出かけることだけが重要であるわけでも、また不可欠であるわけでもありません。日頃の授業やゼミ活動を通じて、自らの潜在的な能力を引き出し、次のステップにつなげていくことが何よりも重要です。後援会からのご支援もあり、様々な工夫を凝らしたゼミ活動や授業実践が増えてきております。こうした実績の積み重ねこそが、グローバル化し急速に変化する世界にあっても、しっかりとした考え方をもち、地に足のついた行動をとることができる人材の育成につながるものと確信しております。

学生一人一人が人間的な成長を着実に遂げていけるよう教職員一同これからも様々な努力を重ねていきたいと思います。今後とも引き続き、私どもの教育・研究活動へのご理解とご協力を賜りたく存じます。

研究室紹介 ～ドイツ文学研究室～

..... 人文学科教授 竹岡 健一

ドイツ文学研究室より、近年の主な成果を二つ紹介させていただきます。一つは、ヘルマン・ヘッセ文学の翻訳です。『車輪の下』で有名なヘッセは、わが国では戦前より親しまれ、多数の全集が刊行されましたが、すべて絶版となっていました。そこで、「日本ヘルマン・ヘッセ友の会・研究会」の編集により、最新のドイツ語版全集を底本として、新たに『ヘルマン・ヘッセ全集』（全16巻、2007年完結）と『ヘルマン・ヘッセ エッ

セイ全集』（全8巻、2011年完結）が、臨川書店から刊行されました。竹岡は、両全集ともに編集者および翻訳者として携わりましたが、前者は、2008年に、日本翻訳家協会より「第44回日本翻訳出版文化賞」を授与されました。

もう一つは、ドイツの廉価書籍販売組織「ブッククラブ」に関する研究です。19世紀末以降、階級闘争に目覚めたプロレタリアートや、賃金の低いサラリーマンにとって、読書によって教養を身につけることは、経済的な豊かさと並んで、身分上昇の必須条件とみなされました。しかも、図書館で読んだり、普及版で間に合わせたりするのではなく、立派な装丁の蔵書を家庭に持つことが理想とされたのです。そうした人々を対象に、内容も見栄えもよい本を、様々な手段を用いて市価よりも安く提供したのが「ブッククラブ」であり、思想傾向の相違や商業性の度合いに応じて、大小様々な組織が見られました。知の大衆化、とりわけ文芸作品の普及に大きな役割を果たしたこの書籍販売形態の全体像を明らかにするべく、科学研究費補助金などの外部資金も得ながら研究を進めています。



～学生からひと言～

私は4年間、竹岡先生からドイツ語やドイツ語圏の文学・文化について教わってききましたが、その中で特に重視されていたのは、「読む力」と「考える力」の大切さでした。語学学習では、昨今、会話力などの実用性が強調されますが、それと同時にまずは「読む力」が重要であり、それが「考える力」に繋がるということを授業の中で実感させられました。例えば、2年次から受講を続けている「ドイツ語テキスト演習」では、ドイツの短編小説や童話を原文で味わい、作品のテーマについてじっくりと考えることができました。また、ゼミでも1920年代ベルリンのモダンガールに関する論文などを、先生の解説を聞きながらゼミのメンバーと一緒に読み進めることで、一人では気づけなかった様々な事柄について深く考える機会が得られました。

(人文学科4年 村中瑛美)

平成 25 年度後援会総会

7月13日(土)に第11回法文学部後援会総会が開催され、保護者・教職員合わせて約100名が出席しました。総会では、平井法文学部長の挨拶の後、①会長および役員を選出、②平成24年度事業報告、③平成24年度決算および監査報告、④平成25年度事業計画、⑤平成25年度予算について審議が行われ、原案通り承認されました。

次に、森尾就職委員長から就職状況について報告が行われ、昨年度の就職状況や今後の支援策等について説明が行われました。

続いて、保護者の方々に後援会の教育研究活動支援事業の現状について理解を深めていただくために、支援を受けた学生たちによる活動体験報告を行いました。法政策学科からは南さつま市における「寺小屋復活プロジェクト」について、

経済情報学科からは「エコスイーププロジェクト」並びにその取組が「低炭素杯2013 環境大臣賞金賞(ソーシャルビジネス部門)」を受賞したことについて、人文学科からは「県内の歴史民俗資料館への実地調査および取材」について、それぞれ報告が行われました。

総会終了後に開催された懇談会には、保護者・教職員合わせて約80名が参加され、大学生活、教育内容や就職状況等について活発な情報交換が行われていました。保護者からは、たいへん有意義な交流の機会が持てたとの声が多く聞かれました。



学生発表の様子



懇談会の様子

就職状況

法文学部就職委員長(法政策学科准教授) 森尾 成之

平成24年度卒業生の就職率は、法文学部全体では88.7%とほぼ昨年と同様でしたが、学生の就職状況は、なお厳しいものがあります。こうした中であって、公務員希望者、とりわけ地方公務員については、いわゆる「団塊の世代」の方々の退職に伴う補充を背景として採用数が増加していることも追い風となり、健闘しています。

本年度の就職内定者については現在集計中です。現在、公務員試験の発表が続いておりますが、現時点では昨年並みで推移するのではと思われます。法文学部就職委員会は、就職活動中の4年生に対し、一人でも多くの学生が希望の進路を選び取ることができるように、全学就職支援センターと連携しながら法文学部就職支援室を通じて支援しております。

また、全学的な状況として、3年生を対象とした各種ガイダンスについて1、2年生の参加も可能にするなど、今までよりも早い段階から就職への意識を高めるよう指導する方向にあります。

◎平成24年度卒業生の就職率

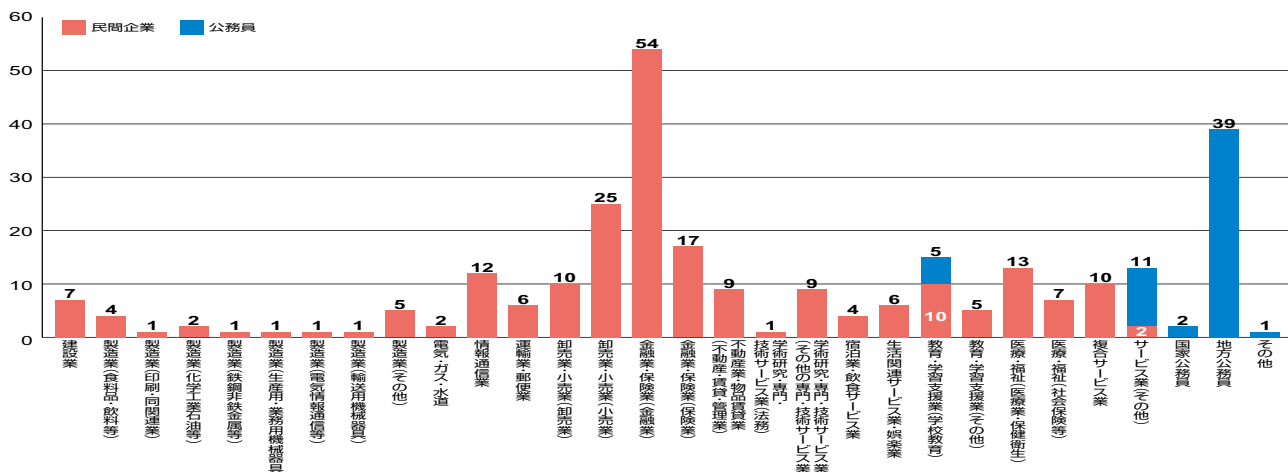
学 科	法政策学科	経済情報学科	人文学科	合 計
卒業生数	102人	148人	146人	396人
就職希望者数	78人	133人	108人	319人
就職者数	72人	118人	93人	283人
就職率	92.3%	88.7%	86.1%	88.7%

※就職希望者以外の卒業生の内訳には、大学院進学者、留学、専修学校への入学、結婚等により就職の意思がない者、卒業後の進路未定者が含まれる。

◎平成24年度卒業生の公民別就職状況

学 科	法政策学科		経済情報学科		人文学科		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
民間企業	27人	17人	47人	56人	8人	71人	82人	144人
公務員	13人	15人	8人	7人	3人	11人	24人	33人
合 計	72人		118人		93人		283人	

◎平成24年度卒業生の産業分類別就職状況(単位:人)



平成 24 年度決算・平成 25 年度予算

【平成 24 年度決算】

1. 収入の部

(単位:円) 平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

項 目	予算額(A)	決算額(B)	増減額(B-A)	摘 要
正 会 員 会 費	6,460,000	7,585,000	1,125,000	保護者会員
特 別 会 員 会 費	656,000	584,000	△ 72,000	教職員会員
賛 助 会 員 会 費	100,000	470,000	370,000	同窓会員
雑 収 入	184,000	183,429	△ 571	後援会総会・理事会懇談会会費(参加者から徴収)、預金利息等
前 年 度 繰 越 額	10,633,459	10,633,459	0	
合 計	18,033,459	19,455,888	1,422,429	

2. 支出の部

項 目	予算額(A)	決算額(B)	増減額(B-A)	摘 要
事 業 費	5,450,000	4,846,124	△ 603,876	就職支援室運営、就職支援、教育研究活動支援、福利厚生支援、教育環境整備支援
会 議 費	250,000	162,500	△ 87,500	懇談会経費(参加者から会費を徴収して支出)、後援会総会のお茶ペットボトル代等
事 務 運 営 費	1,200,000	1,077,297	△ 122,703	後援会事務職員給与、通信費、消耗品費等
予 備 費	200,000	79,590	△ 120,410	
次年度繰越額 (前年度末現在繰越額)	10,933,459	※1 13,290,377	2,356,918	※平成25年3月31日現在の預金残高
(返還準備額不足分補填)	※2 300,000			
合 計	18,033,459	19,455,888	1,422,429	

(注1)「返還準備額」とは、正会員(学生の保護者等)の会費が年額 5,000 円で、最短修業年限分の会費を一括納入することに伴う、解散等不測の事態が生じた場合の返還に備えるための準備金。

(注2)「返還準備額不足分補填」とは、前年度繰越分から返還準備額を差し引いた金額がマイナスとなった場合に、その不足額を補てんするためのシミュレーションを行い算出した金額。

平成 24 年度	
前年度繰越額	10,633,459
返還準備額	13,300,000 (正会員(学生の保護者等)の前払い会費の合計額で、平成 23 年度末に必要な返還準備金額を計上。)
不足額(前年度繰越額-返還準備額)	△ 2,666,541 (この不足額補填のための金額を年 300,000 円(※2)とし、9 年目に解消するシミュレーション結果を得た。)

【平成 25 年度予算】

1. 収入の部

(単位:円) 平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

項 目	24年度予算額(A)	25年度予算額(B)	増減額(B-A)	摘 要
正 会 員 会 費	6,460,000	6,940,000	480,000	保護者会員
特 別 会 員 会 費	656,000	584,000	△ 72,000	教職員会員
賛 助 会 員 会 費	100,000	100,000	0	同窓会員
雑 収 入	184,000	176,000	△ 8,000	後援会総会・理事会の懇談会会費(参加者から徴収)、預金利息
前 年 度 繰 越 額	10,633,459	13,290,377	2,656,918	
合 計	18,033,459	21,090,377	3,056,918	

2. 支出の部

項 目	24年度予算額(A)	25年度予算額(B)	増減額(B-A)	摘 要
事 業 費	5,450,000	5,950,000	500,000	就職支援室運営、就職支援、教育研究活動支援、福利厚生支援、教育環境整備支援
会 議 費	250,000	250,000	0	懇談会経費(参加者から会費を徴収して支出)、後援会総会のお茶ペットボトル代等
事 務 運 営 費	1,200,000	1,200,000	0	後援会事務職員給与、通信費、消耗品費等
予 備 費	200,000	200,000	0	
次年度繰越額 (前年度末現在繰越額)	10,933,459	13,490,377	2,556,918	
(返還準備額不足分補填)	※1 300,000	※2 200,000		
合 計	18,033,459	21,090,377	3,056,918	

(注1)「返還準備額」とは、正会員(学生の保護者等)の会費が年額 5,000 円で、最短修業年限分の会費を一括納入することに伴う、解散等不測の事態が生じた場合の返還に備えるための準備金。

(注2)「返還準備額不足分補填」とは、前年度繰越分から返還準備額を差し引いた金額がマイナスとなった場合に、その不足額を補てんするためのシミュレーションを行い算出した金額。

平成 24 年度	
前年度繰越額	10,633,459
返還準備額	13,300,000 (正会員(学生の保護者等)の前払い会費の合計額で、平成 23 年度末に必要な返還準備金額を計上。)
不足額(前年度繰越額-返還準備額)	△ 2,666,541 (この不足額補填のための金額を年 300,000 円※1とし、9 年目に解消するシミュレーション結果を得た。)

平成 25 年度	
前年度繰越額	13,290,377
返還準備額	14,400,000 (正会員(学生の保護者等)の前払い会費の合計額で、平成 24 年度末に必要な返還準備金額を計上。)
不足額(前年度繰越額-返還準備額)	△ 1,109,623 (この不足額補填のための金額を年 200,000 円※2とし、6 年目に解消するシミュレーション結果を得た。)

平成 25 年度後援会役員一覧

会 長：阿多 真紀子	(司法政策研究科) 清野 正智
顧問：平井 一臣	(臨床心理学研究科) 大平 公明
副 会 長：西 啓一郎、吉永 九州男	理事〔教 員〕：
常任理事：金丸 哲、中島 大輔	(法政策学科) 眞砂 康司、小山 憲明
理事〔保護者〕：	(経済情報学科) 中島 大輔、山本 一哉
(法政策学科) 森 茂、杉山 まゆみ、永留 宏幸	(人文学科) 竹岡 健一、近藤 和敬
(経済情報学科) 阿多 真紀子、秋丸 幸子、	(司法政策研究科) 村山 洋介
松田 五二	(臨床心理学研究科) 中原 睦美
(人文学科) 西 啓一郎、有村 幸子、吉永 九州男	監査：安永 いづみ、土居 正典
(人文社会科学研究科) 南竹 一成	監事：中村 智子

問い合わせ先 鹿児島大学法文学部後援会事務局

〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 電話 099-285-7510、7517 FAX 099-285-7609
E-mail kouenkai@leh.kagoshima-u.ac.jp ○後援会ホームページ：http://www.kadai-houbun-kouenkai.jp/